

令和4年度 山形美術館事業計画書

2022年4月1日

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
山形銀行所蔵 描かれたやまが たの四季	<p>山形の四季の移ろいの中で日々眺め仰ぎ見る山々—吾妻山、飯豊連峰、朝日岳、蔵王、月山、鳥海山、そして山形の母なる川—最上川。山形に生きる人々はこの厳しくも優しさを内包した山形の風景や風土に心を写し、精神を育んできた。さらに山形の自然に魅了された多くの作家は、それらを鋭敏な感覚と繊細な心でみつめ、多くの優れた作品を生みだしている。</p> <p>本展は、地域とともに歩む山形銀行が所蔵する明治期から現代までの多彩な作品から、山形ゆかりの作家が描いた、県内各地の四季折々の風景画を中心に紹介する。また40年にわたり制作している「県内風景画シリーズカレンダー」の原画作品も合わせて展示し、山形の自然風土を見つめる作家の個性的な表現に触れる機会とする。</p>	4月2日(土) - 5月8日(日)	一般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜と5月5日は中学生以下無料
		7月15日(金) - 8月28日(日)	
ますむらひろし展	<p>山形県米沢市出身の漫画家・ますむらひろし(1952-)の業績を紹介する山形市初の展覧会となる。21歳でのデビューから、雑誌『ガロ』を経て『マンガ少年』などで作品を発表。宮沢賢治の物語を猫の姿に変えて漫画化したシリーズで知られ、なかでもますむらの作品を原案とした1985年の劇場版アニメ『銀河鉄道の夜』は100万人を動員するヒットとなった。近年は架空の世界を描いたアタゴオルシリーズに加え、『銀河鉄道の夜』を新たな解釈で紹介する漫画に取り組んでいる。本展では代表作『アタゴオル物語』から、最新作に至るまでの豊富な原画や資料を展示。幅広い世代に愛される、ますむらひろしの世界を紹介する。</p>	7月15日(金) - 8月28日(日)	一般 1,200円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料
		11月3日(木・祝) - 11月20日(日)	
日本画家・高嶋 祥光—誰か知る 心の花を	<p>1894年、現在の村山市に生まれた高嶋祥光(本名、孝蔵)は、画家を志して上京し、太平洋画会研究所に学んだ。後藤松亭や山内多門、小室翠雲に学び、帝展に入選を重ねたが、1945年の東京空襲で罹災、山形市に疎開した。以後は山形にとどまり、「春光会」を組織して後進の育成に努めるほか、1951年に再興された新興美術院に同人として参加し、山形から日本画の振興に努めていく。山形の風物を題材に墨線を生かした素朴な温かみのある作品として多くの人たちに愛されている。</p> <p>本展では、ご遺族の協力のもと、絵画作品とともに、東京空襲の焼け跡から救い出された従軍画家として中国で描いたスケッチブックを紹介。晩年の絵日記帖や山形美術館が所蔵する作品も展示し、高嶋祥光の郷愁あふれる日本画の魅力を紹介する。</p>	11月3日(木・祝) - 11月20日(日)	一般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料 ※「高野元孝展」と共通
		11月3日(木・祝) - 11月20日(日)	
北国の叙情— 高野元孝油絵展	<p>長年東北の冬景色に取り組んでいる洋画家・高野元孝を紹介する。1940年、東京に生まれた高野は、東北の無垢の自然に惹かれ、40年にわたり北国の冬をダイナミックなタッチで描き続けている。特に厳冬の風景とそこに生活する人々を捉えた作品には、容赦のない自然の中で逞しく生きる人間への高野の温かなまなざしが感じられる。本展は高野元孝が描く東北の冬景色を中心に展示し、北国の自然の魅力を紹介する。</p>	11月3日(木・祝) - 11月20日(日)	一般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料 ※「高嶋祥光展」と共通
		11月3日(木・祝) - 11月20日(日)	

-企画展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
服部コレクション 山形が誇る フランスと日本の美術	1985年、現在の山形美術館の建物である「新館」のオープンを機に、20世紀フランス絵画に焦点を当てた新たな収集方針が加えられた。ルオー、ピカソ、シャガールをはじめとする巨匠たちと、ビュッフェ、アイズペリ、荻須高德など当時のパリ画壇で活躍した現代作家の絵画60点に加え、ロダン、ブールデル、マイヨールらの彫刻4点が収集された。現在それらは当時の山形新聞社社長であり初代館長の服部敬雄の名にちなみ「服部コレクション」と呼ばれている。本展では、フランス近代美術の「服部コレクション」を中心に、県美展の審査で山形を訪れた小倉遊亀、熊谷登久平などの優品をあわせて紹介する。	12月15日(木) - 1月22日(日)	
		一般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料	

-3県展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
第77回 山形県総合美術展	山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。1946年6月に第1回展が開催されて以来、本年度で77回となる。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招いて入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示する。併せて第64回こども県展を開催し、幼稚園から中学生までの児童生徒の絵を展示する。	9月3日(土) - 9月19日(月・祝)	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第47回 山形県総合書道展	山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し開催している本展は、1975年の第1回展開催以来、本年度で47回を迎える。県書壇の重鎮らの合同審査により、優秀作、入選作を選定し表彰する。また審査員らによるギャラリートークを通して、県書道界のなご一層の振興をはかる。	9月24日(土) - 10月10日(月・祝)	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第57回 山形県写真展	山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。1967年1月の第1回展の開催以来、本年度で57回を迎える。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家の審査により入賞、入選を選んで表彰する。	2月23日(木・祝) - 3月21日(火・祝)	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	

-収蔵品によるテーマ展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
フランス近代絵画を旅する 吉野石膏コレクション・服部コレクション	当館収蔵品のなかで、吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より当館に寄託されている絵画コレクションは、印象派を中心に、ポスト印象派、エコール・ド・パリまで、多様な作品が揃っている。また、1985年の本館新設に際して収集された服部コレクションは、現代フランス絵画の巨匠たちによる優れた作品群として知られている。 本展では、二つのフランス絵画コレクションを通して、19世紀から20世紀後半までのフランス絵画の多彩な展開を、テーマを設け通年にわたり紹介する。	年間通し	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料 ※同時開催の展覧会と統一料金	
紅花商人伝世の名品 長谷川コレクションの魅力	山形美術館の開館後間もない 1968 (昭和 43) 年、当時の山形銀行会長であった長谷川吉郎氏より、㊦長谷川家歴代が収集した美術品 163 点が寄贈された。以降 1994 年には㊧長谷川家より当時の殖産銀行(現・きらやか銀行)会長・長谷川吉内氏の遺志を継いだ長谷川憲治氏より 81 点、翌 95 年に再び㊦長谷川家より 48 点が追加寄贈され、全 292 点で構成される「長谷川コレクション」は、当館の日本美術の中核をなすコレクションとして親しまれている。 本展では、紅花商人であった長谷川家が守り伝えてきた作品を、季節ごとテーマを設け通年にわたり紹介する。	年間通し	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料 ※同時開催の展覧会と統一料金	

-収蔵品展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
収蔵品展	常設展 「巨匠の広場」「新海竹太郎・竹蔵の彫刻」 「彫刻の小部屋」	年間通し	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※収蔵品展によっては料金の変更あり ※土曜は中学生以下無料	